



—東地中海地域ニュース—

レバノン：組閣を巡る情報

(9月11日付ロリアン・ルージュ紙)

9月11日付現地仏語紙「ロリアン・ルージュ」に「サアド・ハリリーは次期首相に再び指名されることを確信しつつ、一旦辞任することでゲームのルールを変えることを望んでいる」という論説記事が掲載された。概要は以下のとおり。

1. サアド・ハリリー次期首相は9月10日、挙国一致内閣の組閣を諦める旨発表し、組閣の努力を妨げた野党を非難した。次に何が起こるであろうか。憲法によれば、新次期首相を指名するために、議会で新たな協議が必要である。
2. スレイマーン大統領によりハリリーが再度次期首相に指名されることは、ほぼ確実である。同大統領はベッリ国会議長と会談を行い、国会における新たな協議の日取りを決定するであろう。しかし、協議といっても、形式的なものであり、結果は最初から分かっている。与野党の指導者、特にベッリ国会議長は、サアド・ハリリーに再度組閣を要請することを明らかにしている。
3. 与党筋によれば、ハリリーは事態を麻痺させた野党から主導権を奪うことを求めている。ハリリーは想像できるあらゆる譲歩を行い、野党の立場を和らげるためにシリア訪問を原則的に受け入れることまでした。同筋によれば、交渉が結果を生まなかったのは、レバノンが未解決の地域的対立の人質になっているからである。アナリストによれば、もしアウン将軍が通信相と内相のポストを獲得すれば、ヒズブッラーが間接的にレバノンの情報機関の幾つかをコントロールすることになったであろう。それはクーデターに匹敵することである。
4. 与党筋によれば、イランと西側との間で開始されるであろう核問題に関する交渉において、イランは自分のカードの中にレバノンの危機を含めることを躊躇していない。国内の危機が地域的に広がりを持っていることは、カタルがドーハに於いて再度レバノン諸勢力間の会合を主催し、挙国一致内閣の編成を助ける用意があることを言明したことから確認される。